

横浜環状南線 都市型トンネル施工技術検討会
第2回検討会 議事要旨

(日 時) 平成20年5月27日(火曜日) 15:30～17:30
(場 所) (財)高速道路技術センター 第2・3会議室
(出席者) 委員長 今田 徹 東京都立大学 名誉教授
委員 西村 和夫 首都大学東京大学院 都市環境科学研究科
都市基盤環境工学専攻 教授
真下 英人 独立行政法人土木研究所 道路技術研究グループ
トンネルチーム 上席研究員
小山 幸則 京都大学大学院 工学研究科
社会基盤工学専攻社会基盤安全工学講座 教授
(代理出席)中野 清人 株式会社高速道路総合技術研究所 道路研究部
トンネル研究室長
委託者 東日本高速道路株式会社 関東支社 横浜工事事務所
事務局 財団法人高速道路技術センター

(敬称略)

(議事要旨)

1. 前回議事要旨の確認について
(資料 - 2 を事務局より説明)
 - ・ 第1回検討会議事要旨として了承された。
2. 全体検討フローについて
(資料 - 3 「全体検討フロー」を事務局より説明)
 - ・ 前回までの検討フローからの変更点があったが、今後の検討フローとして了承された。
3. シールド適用可能区間の検討について
(資料 - 3 「1. シールド工法の適用性の検討」を事務局より説明)
 - ・ 桂台トンネル、公田トンネル及び笠間トンネルの区間について、シールド工法の適用性があるものと考えられる。
4. 避難設備および非常駐車帯等の検討について
(資料 - 3 「2. 避難設備および非常駐車帯等の検討」を事務局より説明)
 - ・ シールド工法を採用しても、避難設備および非常駐車帯等の施工は可能である。
 - ・ 新技術の採用も考慮し、幅広く検討を行うことが望ましい。
5. 解析手法および解析条件の検討について
(資料 - 3 「3. 解析手法および解析条件の検討」を事務局より説明)
 - ・ 解析手法は了承された。
 - ・ 解析断面については、必要に応じて追加等を行うこととする。

6. シールド工法の比較検討について

(資料 - 3「4. シールド工法の比較検討」を事務局より説明)

- ・ 泥水・泥土のいずれも本プロジェクトに対して適用可能であり、今後、現地状況等により選定していく必要がある。

7. まとめ

(第2回検討会のまとめとして、以下のとおり意見等の整理がなされた。)

- ・ 桂台トンネル、公田トンネル及び笠間トンネル区間についてはシールド工法の適用性があるものと考えられる。
- ・ セグメントの解析等については原案のまま検討を進めていく。
- ・ シールド工法については、泥水・泥土のいずれも本プロジェクトに対して適用可能であり、今後、現地状況等に応じて適切なものを選定していく必要がある。

以上